

がんばったで!

ナニワの
オツチャン弁護士
評論・
コラム集

45年

弁護士・映画評論家
坂和 章平

まえがき

1) 私が愛媛県松山市で生まれたのは1949年1月26日。したがって、2019年1月26日に満70歳を迎えた。他方、私の弁護士登録は1974年4月、そして、『がんばったで！31年』の出版は2005年8月、『がんばったで！40年』の出版は2013年12月だ。2014年3月末日をもって弁護士生活40年になった私の評論、コラム集を中心とする活動については、『がんばったで！31年』と『がんばったで！40年』に収録されている。

『がんばったで！40年』から5年。すなわち、2014年4月から2019年3月まで(=65歳から70歳まで)の5年間の評論、コラム等をまとめたのが、本書『がんばったで！45年』だ。

2) 『がんばったで！40年』を出版したのは、「概ね10年の区切りで、弁護士としての活動と映画評論家としての活動をまとめることができばうれしいな」と思ったためだが、その当時は自分が病気で倒れるとか、死んでしまうなどと考えたことは1度もなかった。しかし、2015年8月に受診した内視鏡検査で直腸ガンが発見され、直ちに9月に手術。一時は人工肛門を付ける身となり、体重も約15kg減り、日常生活もかなり不便になった。その上、追い打ちをかけるように、翌2016年10月には胃ガンが発見され、直後の11月に幽門部(下部)3分の2を切除する手術を受けた。

このような、人生最大の試練を2度も続けて受ければ、いくら何ゴトにも前向きで積極的な私でも、人生観が変わるものだ。仕事はもういいや。映画もほどほどに。自転車に乗って町を駆け巡る人生もポチポチ終わりだろう。そう思ったのは事実。ところが、幸いなことにガンの転移が全くないうえ、少しずつ体重が増え、顔色がよくなり、自転車通勤や映画館通いが復活してくると、“人間の欲”とは因果なものだ。本来なら、評論・コラム集第3弾の出版などあきらめるべきかもしれないが、逆に私は活動量が増えていることを考え、5年区切りとして、第3弾の『がんばったで！45年』を出版する決心を。

3) 本書に収録したのは、『がんばったで！40年』以降、すなわち2014年4月から2019年3月までの5年間の活動だ。その内容は新聞や雑誌に掲載された私の評論やコラムが中

心だが、その領域は①弁護士活動、②映画評論家活動、③日中友好活動の三本柱になっている。法律書の出版が『早わかり！大災害対策・復興をめぐる法と政策』（民事法研究会２０１５年１１月）と『まちづくりの法律がわかる本』（学芸出版社２０１７年６月）の２冊だけだったのは少し寂しいが、論文はそれなりの量を書いている。また、『SHOW-HEYシネマルーム』をはじめ、映画関係本の出版は順調だ。また、ここ５年間は日中友好活動の広がりが大きな特徴になっている。

さらに、年に２回発行している『事務所だより』の充実度が増しているため、その「巻頭言」や「交遊録」「映画評論家『SHOW-HEY』の部屋」等、私の活動の特徴づけるものが多くなっている。そのため、本書では『事務所だより』からの引用も多いが、それを読めば、私のプライベートを含むここ５年間のさまざまな素顔を楽しむことができるはずだ。

４）さあ、本書も頭から順序立てて読む必要はない。まず目次を見て、これは面白そうだったものからピックアップして見て頂ければ結構。とにかく身構えないで、気楽にコーヒーでも飲みながら味わってもらいたい。そして、読者の皆様からたくさんのご意見やさまざまな視点からの批評を頂くことができれば、私にとって望外の幸せだ。

２０１９（平成３１）年２月２２日

弁護士・映画評論家 坂 和 章 平

目 次

まえがき	3
------------	---

巻頭特集 北京電影学院“実験電影”学院賞の発足と授賞式

1. 北京電影学院“実験電影”学院賞の発足	17
2. 北京電影学院“実験電影”学院賞の授賞式（事務所だより第26号） ・ 1日目、2日目（2015年6月28日・29日）夕食会、授賞式など	19
3. 頤和園観光（事務所だより第26号） ・ 3日目（2015年6月30日）北京の頤和園観光	27

＜第1編 坂和弁護士の素顔あれこれ＞

第1章 新聞掲載記事にみる素顔あれこれ

1. 愛媛新聞 ワイドえひめ（13.12.25）「映画評論本 深く幅広く」（64歳）	29
2. シネマトリップ（14.11.26） 『映画にまつわるあれこれ シネマ雑記帳』	30
「ナニワのオッチャン弁護士に会ってきた」（65歳）	
3. 日本と中国（17.7.1） 「二足のわらじ」で映画も語るナニワの熱血弁護士	32
「中国映画は、今の日本人が失った世界を思い起こさせてくれる」（68歳）	
4. 都島区老連 2019（平成31）年1月 第62号（69歳）	33

第2章 事務所だより巻頭写真にみる素顔あれこれ

1. 笑顔の坂和弁護士（事務所だより第1号・2003年盛夏号）（54歳）	35
2. 北京旅行・万里の長城にて（事務所だより第2号・2004年新年号）（54歳）	35
3. 中国・桂林旅行 トラに乗って （事務所だより第3号・2004年盛夏号）（55歳）	36
4. 中国・雲南省旅行 ナシ族の民族衣装で （事務所だより第4号・2005年新年号）（55歳）	36
5. 試写室で（事務所だより第5号・2005年盛夏号）（56歳）	37
6. 中国・山東省旅行 秦の始皇帝になって （事務所だより第6号・2006年新年号）（56歳）	37

7. 金沢旅行・武將姿／映画検定4級合格！ (事務所だより第7号・2006年盛夏号) (57歳)	38
8. 愛車に乗って／映画検定3級合格！ (事務所だより第8号・2007年新年号) (58歳)	39
9. 北京電影学院にて特別講義 (2007. 10. 10) (事務所だより第10号・2008年新年号) (58歳)	40
10. 北海道NORTHERN HORSE PARKで乗馬 (事務所だより第12号・2009年新年号) (59歳)	41
11. 祝！60歳 赤チョッキ／北京のまちで (事務所だより第13号・2009年盛夏号) (60歳)	41

第3章 膨大な著書の表紙写真にみる素顔あれこれ

1. 『SHOW-H E Yシネマルーム』1～42の表紙写真	43
2. 「コラム集」の表紙写真	53
3. 「名作映画もの」の表紙写真 『名作映画から学ぶ裁判員制度』『名作映画には「生きるヒント」がいっぱい！』 『“法廷モノ”名作映画から学ぶ生きた法律と裁判』	54

第4章 「表紙撮影の舞台裏」にみる素顔あれこれ

1. 表紙撮影の舞台裏……？ (シネマ7)	56	17. 表紙撮影の舞台裏(14)一裏表細は？ (シネマ25)	69
2. メイキング・オブ・シネマ11 ～表紙撮影ウラ話～ (シネマ11)	57	18. 表紙撮影の舞台裏(15) (シネマ26)	70
3. 表紙撮影の舞台裏(2) (シネマ12)	58	19. 表紙撮影の舞台裏(16) (シネマ27)	71
4. 表紙撮影の舞台裏(3) (シネマ13)	59	20. 表紙撮影の舞台裏(17) (シネマ29)	72
5. 表紙撮影の舞台裏(4) (シネマ14)	60	21. 表紙撮影の舞台裏(18) (シネマ30)	73
6. 表紙撮影の舞台裏(5) (シネマ14)	60	22. 表紙撮影の舞台裏(19) (シネマ31)	74
7. 表紙撮影の舞台裏(5) (シネマ15)	61	23. 表紙撮影の舞台裏(20) (シネマ32)	75
8. 表紙撮影の舞台裏(6) (シネマ18)	61	24. 表紙撮影の舞台裏(21) (シネマ33)	76
9. 表紙撮影の舞台裏(7) (シネマ19)	62	25. 表紙撮影の舞台裏(22) (シネマ34)	77
10. 表紙撮影の舞台裏(8)その1 (シネマ20)	62	26. 表紙撮影の舞台裏(23) (シネマ35)	78
11. 表紙撮影の舞台裏(8)その2 (シネマ20)	63	27. 表紙撮影の舞台裏(24) (シネマ36)	79
12. 表紙撮影の舞台裏(9) (シネマ21)	64	28. 表紙撮影の舞台裏(25) (シネマ37)	80
13. 表紙撮影の舞台裏(10) (シネマ22)	65	29. 表紙撮影の舞台裏(26) (シネマ38)	81
14. 表紙撮影の舞台裏(11) (シネマ23)	66	30. 表紙撮影の舞台裏(27) (シネマ39)	82
15. 表紙撮影の舞台裏(12) (シネマ24)	67	31. 表紙撮影の舞台裏(28) (シネマ40)	83
16. 表紙撮影の舞台裏(13)一表表細は？ (シネマ25)	68	32. 表紙撮影の舞台裏(29) (シネマ41)	84
		33. 表紙撮影の舞台裏(30) (シネマ42)	85

第5章 その他の素顔あれこれ

第1節 映画出資とシネフェスにみる素顔あれこれ

1. 『僕の帰る場所 Passage of Life』への出資と第13回大阪アジア映画祭
(2018. 3/9～18)、ウェルカムパーティー(2018. 3/15) (事務所だより第31号) 88
2. 『僕の帰る場所 Passage of Life』が2019. 2. 15から
シネ・リーブル梅田で公開! 都島の自宅で食事会も! (2019. 2/16) 89
3. 「おおさかシネマフェスティバル2016」の開催 (2016. 3/6) 92
(事務所だより第27号)
4. 実行委員会の打ち上げ会をコートビル2階で開催 (2016. 4/23) 93
(事務所だより第27号)
5. 「おおさかシネマフェスティバル2017」の開催 (2017. 3/5) 94
(事務所だより第29号)
6. 実行委員会の打ち上げ懇親会を坂和総合法律事務所で開催 (2017. 4/15) 95
(事務所だより第29号)

第2節 依頼者との交遊にみる素顔あれこれ

1. 近畿交通共済協同組合 (新年会、お花見懇親会、天神祭バーベキュー等) 96
2. 株式会社オービック (50周年記念式典、運動会) 103
3. 草津の北中西・栄町地区再開発組合 (起工式) 105

第3節 26期司法修習生にみる素顔あれこれ

1. 26期40周年記念会 (2013年9月) と1組クラス会 (2014年8月) 106
(事務所だより第24号)
2. 2年半ぶり26期司法修習1組クラス会を開催! (2016. 9/24) 107
(事務所だより第28号)
3. 大阪修習26期会 (2018. 3/9) (事務所だより第31号) 108
4. 26期45周年懇親会・26期1組クラス別懇親会 (2018. 12/1) 109
(事務所だより第33号掲載予定)

第4節 愛光9期にみる素顔あれこれ

1. 愛光9期卒業50周年記念関西大会 (2017. 5/27・28) (事務所だより第29号) .. 110
2. 愛光学園関西9期会 (2017. 10/17) (事務所だより第30号) 111
3. 愛光関西9期会に囲基会が発足! (2018. 5/31、6/8) (事務所だより第31号) 112
4. 愛光9期囲基会・飲み会 (2018. 10/9) (事務所だより第32号) 113

第5節 プライベートにみる素顔あれこれ

1. 自宅改装、転居、お花見 114
2. 結婚式、お葬式 118
3. お正月行事、誕生日、運動会 120

第6節 直腸ガン・胃ガンの克服とゴルフにみる素顔あれこれ

1. 坂和章平の一身上のご報告（直腸ガン手術のご報告） 125
（事務所だより第26号）
2. 直腸ガンを克服し、苦小牧の桂ゴルフ倶楽部で1年半ぶりのゴルフ！（2016.5/15） 126
（事務所だより第27号）
3. 直腸ガン克服の1年を振り返る！新しい人生の再出発を！ 127
（事務所だより第28号）
4. 新たに胃ガンを発見！11月7日に手術！14日退院、仕事に復帰！ 128
（事務所だより第28号）
5. 苦小牧で連チャンゴルフを3回（2017.7/30～31、9/10～11、10/3～4） 129
（事務所だより第30号）
6. 苦小牧でのゴルフを再開！（2018.5/19、20）（事務所だより第31号） 130
7. 苦小牧で連チャンゴルフを4回！ 131
（2018.5/19・20、7/15・16、9/1・2、9/29・30）（事務所だより第32号）
8. 支笏湖観光（2018.9/28・29）、千歳水族館見学（2018.10/27） 132
（事務所だより第32号）

《第2編 弁護士としての本業》

第1章 都市問題での出版

1. 『早わかり！大災害対策・復興をめぐる法と政策—復興法・国土強靱化法・首都直下法・南海トラフ法の読み解き方—』（民事法研究会・2015年11月）
はしがき、チラシ 134
2. 『まちづくりの法律がわかる本』（学芸出版社・2017年6月）
はじめに、チラシ、書評 140

第2章 都市問題の論文

1. 「最高裁判平成20年9月10日 大法廷判決の意義」 145
（民事法研究会『市民と法』No. 54・08年）
2. 「東日本大震災にみる不動産と復興計画・復興立法をめぐる諸問題」 153
（民事法研究会『市民と法』No. 69・11年）
3. 「土地区画整理組合と市街地開発組合の『破産』をどう考えるか」 165
（民事法研究会『市民と法』No. 89・14年）
4. 「制度疲労を起こしている都市計画法の再構築と『官 with 民』によるまちづくりのあり方」 171
（日本建築学会ウェブマガジン『建築討論』・18年4月）

第3章 都市問題での講演（レジメは省略）

1. 建築学会近畿支部環境保全部会（レジメ略）
「景観法の意義と到達点」（12年3月9日）
2. 第90回 豊中まちづくり・フォーラム（レジメ略）
「まちづくり法とまちづくり弁護士奮闘記」（15年8月18日）
3. 茨木市マンションセミナー（レジメ略）
「マンション標準管理規約の平成28年改正とマンショントラブル対処法」
（16年7月23日）
4. 第114回 豊中まちづくり・フォーラム（レジメ略）
「一番やさしい『まちづくり法』入門講座～『まちをつくる』のは人？
いえ、法律です～」（17年8月29日）
5. 2017年度第4回 大阪市立大学都市問題研究会（COU）（レジメ略）
「『まちづくりの法律がわかる本』から学ぶ、まちづくり法のポイントと視点」
（17年11月17日）
6. 比較住宅都市研究会（レジメ略）
「『まちづくりの法律がわかる本』から読み解く都市計画法の『疲労』と今後の展望」
（18年3月2日）

第4章 西淀川公害訴訟の差止請求の論文が再注目

1. 「複数汚染源に対する差止請求」木村保男、東畠敏明、坂和章平
（『法律時報』1978年10月号）（掲載略）
2. 「大阪西淀川公害裁判における因果関係論」坂和章平
（『公害研究』1981年7月）183

第5章 事務所だよりでも都市問題をアピール

1. 章平コラム～災害と復興をめぐる新法が次々と！194
～その解説を次々と執筆！（事務所だより第23号）
2. 若松浜公園とレストラン問題（河川敷の占用許可をめぐって）196
（事務所だより第23号）
3. 徳島出張（2014年8月8日～11日）（事務所だより第24号）197
4. 徳島市長選挙で「白紙撤回」派の市長が当選（2016年3/27）198
一新町西地区再開発の行方は？—（事務所だより第27号）
5. 徳島地裁へ「権利変換計画不認可処分取消訴訟」を提起（2016年8/26）。199
その意義と展望（事務所だより第28号）
6. 徳島市 講演会（2017年2/13）あわぎんホール1F大ホール200
（事務所だより第29号）
7. 徳島地裁は請求棄却の不当判決！控訴審の行方は？（事務所だより第30号）201
8. 老婆心ながら、徳島・新町西地区市街地再開発事業は？最高裁は？202
（事務所だより第31号）

≪第3編 坂和的日中友好活動≫

第1章 毛丹青、李淵博らとの共同作業

1. 『恵恵（フィーフィー） 日中の海を越えた愛』の出版と映画化！204
—毛丹青教授との共同作業、最新報告—（事務所だより第23号）
2. 李淵博クンの家族や毛丹青先生との交流（2015年7/23、7/31、10/14）206
（事務所だより第26号）
3. 祝！淵博株式会社設立、祝！『在日本』大阪事務所開き（2016年5/27）208
（事務所だより第27号）
4. 毛先生、李くんたちと『在日本』メンバーの北陸への取材旅行打ち合わせ210
（2016年7/13）（事務所だより第28号）
5. 毛丹青先生、李くんらと会食「最良屋HEP通り店」（2016年8/3）210
（事務所だより第28号）
6. 毛丹青老師とその教え子たち、さらに新たな中国人との交流211
（2017年4/7、5/1）（事務所だより第29号）
7. 毛丹青氏・李淵博くん・孫晨俊くんらとの交流213
（2017年7/14、7/18、8/16、9/26）（事務所だより第30号）
8. 毛丹青人脈、小玉と阿狸が貴志駅でご対面！（2018年4/29）216
（事務所だより第31号）
9. 毛丹青氏・李淵博くんらとの交流（2018年6/25、9/25、10/17）217
（事務所だより第32号）

第2章 中国人脈の広がり

1. 劉茜懿監督の新作映画『鑑真に尋ねよ』の企画が着々と！219
（事務所だより第26号）
2. 中国安徽省海外联谊会歓迎会（2017年7/12）（事務所だより第30号）220
3. 新たに王雅さんとの交流も！（2018年3/28）（事務所だより第31号）221
4. 史林麗さん、古婷婷さんらとの交流222
（2018年6/19、7/25、8/15、8/18、10/8）（事務所だより第32号）
5. 江西省帰国華僑連合会（僑連）張知明さんご一行約10名が223
都島自宅を訪問（2019.1.5）（事務所だより第33号掲載予定）

第3章 坂和的中国電影論による講演

1. 大阪府日中友好協会 文化茶話会（レジメ略）
「坂和的日中交流の楽しみ方と坂和的中国電影論」（15年11月28日）
2. 関西日中関係学会総会／講演会（レジメ略）
「坂和的日中交流の楽しみ方と坂和的中国電影論」（17年4月22日）

3. 第121回華人経済・経営研究会／講演（レジメ略）
「映画から見た中国社会の変貌と坂和的日中交流の楽しみ方」（17年11月22日）
4. 2019年 関西日中平和友好会 新春祝賀会／講演（レジメ）225
「坂和的 中国映画の楽しみ方」（19年2月2日）

第4章 シネマルーム34（中国映画特集3）出版

1. 『坂和的中国電影大観3』（シネマルーム34）はじめに232
2. 『坂和的中国電影大観3』（シネマルーム34）目次（全90本）236
3. 『坂和的中国電影大観』（シネマルーム5）目次（全66本）238
4. 『坂和的中国電影大観2』（シネマルーム17）目次（全83本）240
5. シネマルーム34以降に鑑賞した中国映画の目次（全53本）243

《第4編 映画評論家編》

第1章 週刊法律新聞連載・その1

1. 『名作映画から学ぶ裁判員制度 第1回』（2017年4月21日）247
2. 『名作映画から学ぶ裁判員制度 第2回』（2017年4月28日）251
3. 『名作映画から学ぶ裁判員制度 第3回』（2017年6月16日）253
4. 『名作映画から学ぶ裁判員制度 第4回』（2017年7月7日）257
5. 『名作映画から学ぶ裁判員制度 第5回』（2017年7月21日）259
6. 『名作映画から学ぶ裁判員制度 第6回』（2017年10月6日）261
7. 『名作映画から学ぶ裁判員制度 第7回』（2018年5月11日）263
8. 法教育に裁判モノ映画の活用を！（2018年1月12日）265
9. 連載に感謝。今年も映画評論で貢献を！（2019年1月11日）267

第2章 週刊法律新聞連載・その2

1. 『弁護士』（16年12月9日）（『シネマ39』75頁）270
2. 『ブリッジ・オブ・スパイ』（16年12月16日）（『シネマ37』20頁）274
3. 『スノーデン』（17年2月17日）（『シネマ39』126頁）278
4. 『揺れる大地 デジタル修復版』（17年4月7日）（『シネマ39』152頁）282
5. 『ブラインド・マッサージ（推拿）』（17年6月2日）（『シネマ39』46頁）285
6. 『チリの闘い 第1部 ブルジョワジーの叛乱／第2部 クーデター／
第3部 民衆の力』（17年9月8日）（『シネマ39』54頁）288
7. 『牯嶺街（クーリンチェ）少年殺人事件 4Kレストア・デジタルリマスター版』292
（17年9月22日）（『シネマ40』58頁）
8. 『否定と肯定』（18年3月2日）（『シネマ41』214頁）296

9. 『三度目の殺人』(18年4月13日) (『シネマ40』218頁)	300
10. 『裁き』(18年4月27日) (『シネマ40』24頁)	304
11. 『ザ・シークレットマン』(18年5月25日) (『シネマ41』44頁)	308
12. 『朴烈(パクヨル) 植民地からのアナキスト』(18年7月20日) (『シネマ41』243頁)	311
13. 『ペンタゴン・ペーパーズ 最高機密文書』(18年8月24日) (『シネマ41』37頁)	314
14. 『検察側の罪人』(18年8月31日) (『シネマ42』41頁)	317
15. 『判決、ふたつの希望』(18年9月7日) (『シネマ42』147頁)	320
16. 『コネクション マフィアたちの法廷』(18年9月14日) (『シネマ29』172頁)	325
17. 『リンカーン弁護士』(18年9月21日) (『シネマ29』178頁)	329
18. 『ジャッジ 裁かれる判事』(18年9月28日) (『シネマ35』93頁)	332
19. 『砂上の法廷 (THE WHOLE TROUTH)』(18年10月5日) (『シネマ38』31頁)	336
20. 『女は二度決断する』(18年10月12日) (『シネマ42』220頁)	339
21. 『モリーズ・ゲーム』(18年10月19日) (『シネマ42』68頁)	342
22. 『マルクス・エンゲルス』(18年10月26日) (『シネマ42』226頁)	345
23. 『万引き家族』(18年11月2日) (『シネマ42』10頁)	348
24. 『教諭師』(18年11月9日) (『シネマ42』46頁)	352
25. 『華氏119』(18年11月16日) (『シネマ6』124頁)	354
26. 『友罪』(18年11月30日) (『シネマ42』165頁)	358
27. 『妻の愛、娘の時』(18年12月7日) (『シネマ42』178頁)	362
28. 『沈黙、愛』(18年12月14日) (『シネマ42』262頁)	365
29. 『LBJ ケネディの意志を継いだ男』(18年12月21日) (『シネマ43』掲載予定)	368
30. 『人魚の眠る家』(19年1月18日) (『シネマ43』掲載予定)	372
31. 『止められるか、俺たちを』(19年1月25日) (『シネマ42』231頁)	375
32. 『タクシー運転手 約束は海を越えて』(19年2月1日) (『シネマ42』248頁)	377
33. 『軍中樂園』(19年2月8日) (『シネマ43』掲載予定)	381
34. 『菊とギロチン』(19年2月15日) (『シネマ43』掲載予定)	384
35. 『乱世備忘 僕らの雨傘運動』(19年2月22日) (『シネマ43』掲載予定)	388
36. 『人類資金』(19年3月1日) (『シネマ32』209頁)	390

第3章 『日本と中国』新聞連載 熱血弁護士 坂和章平 中国映画を語る

1. 連載の開始にあたって…日本人が失った世界との出会い	395
2. 『黄色い大地』	396
3. 『活きる』	397
4. 『山の郵便配達』	398
5. 『再見～また逢う日まで～』	399

6. 『芙蓉鎮』	400
7. 『再生の朝に ―ある裁判官の選択―』	401
8. 『イノセントワールド―天下無賊―』	402
9. 『国姓爺合戦』	403
10. 『玲玲の電影日記』	404
11. 『涙女』	405
12. 『鉄西区』	406
13. 『トウヤーの結婚』	407
14. 『幸せの絆』	408
15. 『愛にかけの橋』	409
16. 『SPIRIT<スピリット>』	410
17. 『CEO（最高経営責任者）』	411
18. 『ジャスミンの花開く』	412
19. 『鬼が来た！』	413
20. 『長江哀歌』	414
21. 『ココシリ』	415
22. 『緑茶』	416
23. 『妻の愛、娘の時』	417
24. 『乳泉村の子』	418
25. 『薄氷の殺人』	419

≪第5編 旅行記にみる坂和弁護士の素顔≫

第1章 海外旅行

台湾旅行（14年8月17日～21日）（事務所だより第24号）	421
--------------------------------	-----

第2章 国内旅行

1. 松山旅行記（13年7月18日）（事務所だより第22号）	425
2. 北海道旅行（1）小樽旅行記（13年7月15日）（事務所だより第22号）	426
3. 北海道旅行（2）富良野・知床・阿寒湖旅行記（13年8月9日～12日） （事務所だより第22号）	427
4. 北海道旅行（3）函館・洞爺湖・札幌旅行記（13年9月21日～24日） （事務所だより第22号）	431
5. 淡路島へ行こう！（西天満連合バスツアー）（14年9月15日） （事務所だより第24号）	433
6. 鹿児島特攻戦跡を訪れる（15年3月7日～9日）（事務所だより第25号）	434

7. さっぽろ雪まつり見学（15年2月11日）（事務所だより第25号）	438
8. 国立国際美術館「始皇帝と大兵馬俑」（16年8月28日） （事務所だより第28号）	439
9. 昼は筑波海軍航空隊記念館など、夜は浅草花やしきを見学 （16年10月2日）（事務所だより第28号）	440
10. 登別温泉観光（17年3月17日、18日）（事務所だより第29号）	442
11. 大塚国際美術館見学（17年4月18日）（事務所だより第29号）	443
12. 葛飾・柴又で寅さん記念館と山田洋次ミュージアムを見学 （17年6月30日）（事務所だより第30号）	444
13. 鎌倉・横須賀旅行記（18年6月27日、28日）（事務所だより第32号）	445
14. 浅草から水上バス観光（18年12月2日）（事務所だより第33号掲載予定）	448

《第6編 事務所だよりにみる坂和弁護士的活動》

第1章 巻頭言 一新年のご挨拶と暑中お見舞いー

1. 事務所だより第22号 14年新年号	450
2. 事務所だより第23号 14年盛夏号	451
3. 事務所だより第24号 15年新年号	452
4. 事務所だより第25号 15年盛夏号	453
5. 事務所だより第26号 16年新年号	454
6. 事務所だより第27号 16年盛夏号	455
7. 事務所だより第28号 17年新年号	456
8. 事務所だより第29号 17年盛夏号	457
9. 事務所だより第30号 18年新年号	458
10. 事務所だより第31号 18年盛夏号	459
11. 事務所だより第32号 19年新年号	460

第2章 坂和章平とすばらしき人たち～交遊録

1. 交遊録（16）持田成典氏（事務所だより第22号）	463
2. 交遊録（17）佐藤晴彦氏（事務所だより第23号）	464
3. 交遊録（18）北京電影学院卒の才女・劉茜懿（リユー・チェンイー）さん （事務所だより第24号）	465
4. 交遊録（19）丸万寿司 代表取締役社長・藤尾正治氏（事務所だより第26号）	466
5. 交遊録（20）安永五郎氏（事務所だより第27号）	467
6. 交遊録（21）山田将治氏（事務所だより第29号）	468
7. 交遊録（22）史林麗さん、古婷婷さん（事務所だより第31号）	469

第3章 映画評論家『SHOW—HEY』の部屋

1. 事務所だより第2号	471	17. 事務所だより第18号	493
2. 事務所だより第3号	472	18. 事務所だより第19号	495
3. 事務所だより第4号	473	19. 事務所だより第20号	496
4. 事務所だより第5号	474	20. 事務所だより第21号	498
5. 事務所だより第6号	475	21. 事務所だより第22号	500
6. 事務所だより第7号	476	22. 事務所だより第23号	501
7. 事務所だより第8号	478	23. 事務所だより第24号	502
8. 事務所だより第9号	479	24. 事務所だより第25号	504
9. 事務所だより第10号	480	25. 事務所だより第26号	506
10. 事務所だより第11号	482	26. 事務所だより第27号	508
11. 事務所だより第12号	484	27. 事務所だより第28号	510
12. 事務所だより第13号	486	28. 事務所だより第29号	512
13. 事務所だより第14号	488	29. 事務所だより第30号	514
14. 事務所だより第15号	489	30. 事務所だより第31号	516
15. 事務所だより第16号	491	31. 事務所だより第32号	518
16. 事務所だより第17号	492		
弁護士兼映画評論家 坂和章平の著書の紹介			520
あとがき			523
著者プロフィール			525

巻頭特集

北京電影学院“実験電影”学院賞 の発足と授賞式

1) 私が2007年10月10日に北京電影学院で行った「坂和的中国電影論」と題した集中講義は受講生が熱心に聴いてくれるとともに、教授陣との強固な信頼関係を築ききっかけになった。その後、早稲田大学に留学したその時の受講生の父親であった北京電影学院の教授を中心とする“ご一行”が日本にやってくることになると、「大阪に行き、坂和弁護士と話をしたい」となったらしい。その結果、2014年7月30日に彼らが来阪し、私の事務所と自宅で盛大な歓迎会を催すことになった。

2) そこで、酒の勢い(?)とカラオケの勢い(?)で決定したのが、“北京電影学院版アカデミー賞”ともいうべき、「北京電影学院“実験電影”学院賞」の発足だ。そうすると、中国流は話が早い。また、実践派弁護士を自負している私も、話が早い。アレよアレよという間に、金額(規模)、時期をはじめとする企画が成立し、翌月には合意内容が文書化されることになった。そんなハプニング(?)によって実現し、2015年6月末に開催された北京電影学院での北京電影学院“実験電影”学院賞の授賞式の盛況ぶりをしっかり報告したい。

3) なお、この北京旅行直後の8月に受診した大腸の内視鏡検査で直腸ガンが発見されたため、以降は、手術と闘病生活が続き、中国旅行はしばらくお預けになっているが、その再開は…?

目次

1. 北京電影学院“実験電影”学院賞の発足	17
2. 北京電影学院“実験電影”学院賞の授賞式(事務所だより第26号) ・ 1日目、2日目(2015年6月28日・29日)夕食会、授賞式など	19
3. 頤和園観光(事務所だより第26号) ・ 3日目(2015年6月30日)北京の頤和園観光	27

1. 北京電影学院“実験電影”学院賞の発足

第1 北京電影学院“実験電影”学院賞の発足（人の縁の積み重ね）（07年～14年）

1) 坂和による北京電影学院での集中講義『坂和的中国電影論』（07年10月10日）

- ・日本側は古澤敏文氏（事務所日より第9号で紹介）、中国側は美術学部王鴻海教授と劉旭光教授の世話によるもの。
- ・日本留学の経験もある劉教授は日本語もペラペラ。後述の劉茜懿さんや、日本人留学生の安藤直子さんを含めた約60名の受講生の熱気はすばらしいものだった。

2) それから7年。北京電影学院を卒業し、早稲田大学に留学中だった劉教授の娘である劉茜懿さんから連絡が入り、2014年7月30日、劉教授、刘晓清教授、霍廷霄教授（張藝謀監督の映画で美術デザインを担当）たちが私の事務所と自宅を訪問。机の上に並ぶ、『シネマルーム』1～32を中心とした書籍を話題に、事務所での公式対談は有意義なものになった（写真①）。



写真① 事務所4Fの大会議室で

3) 続く、会場を自宅マンションに移しての夕食会では、中国映画の話が盛りあがる中で、大いに飲みかつ食べながら、3人の教授たちが北京電影学院聯合作業卒業制作プロジェクト坂和章平賞の設置を提案。坂和を主席スポンサーとして、同賞を発足させる話し合いがされた(写真②)。



写真② 自宅マンションで

4) 北京電影学院内での協議が進み、坂和と北京電影学院との間で北京電影学院学生総合映画製作作業新視覚賞に関する次のとおりの協定書を締結(2014年11月)。

- | |
|--|
| <p>①坂和は北京電影学院の青年映画芸術を発展させることを目的として、「独自の創作を奨励し、かつ、当該創作に係る著作権その他の権利を保護し、海賊版の跳梁を許さない」活動の首席スポンサーに就任(3年間)。</p> <p>②坂和は首席スポンサーとして、年間100万円を寄付し、イベント等に参加する。</p> <p>③北京電影学院は、学生の映画製作を奨励する「新視覚賞」を創設し、毎年10月以降、3、4年生と院生が製作する映画から受賞者を決定する。</p> <p>④坂和は毎年5月頃に開催する、新視覚賞授与式に参加し、その年度の寄付金100万円全額を賞金として授与し、坂和章平の称号を記載した表彰状を授与する。</p> |
|--|

5) 以上の結果、北京電影学院“実験電影”学院賞が決定し、(予定をやりくりしての)主席スポンサーとしての授賞式への参加を決定(2015年6月)

2. 北京電影学院“実験電影”学院賞の授賞式（2015年6月28日・29日） （事務所だより第26号・2016新年号より）

私ののはじめての北京旅行（ツアー旅行）は03年11月。北京電影学院での特別講義『坂和的中国電影論』は07年10月だ。そして、14年7月に、劉旭光教授、劉曉清教授、霍廷霄教授らが来阪した際、坂和を主席スポンサーとする北京電影学院“実験電影”学院賞を発足させることが決定し、15年6月29日、私は評審委員会主席（審査委員会委員長）としてその授賞式に出席した。

<1日目（6月28日）>

- 1) 北京電影学院到着後、劉旭光教授たちに挨拶（写真①②）
- 2) 「北京電影学院“実験電影”学院奖获奖影片放映暨颁奖典礼」を告知する巨大な立て看板にビックリ（写真③④）
- 3) 坂和を歓迎する北京蒙古往事特色餐厅の夕食会に出席。数々のモンゴル式儀式的洗礼を受けた（写真⑤⑥⑦⑧⑨）。

<2日目（6月29日）>

- 1) 学院長室での学院長との対談後、音響棟、アニメ棟、俳優棟を見学
- 2) 18時半から、「北京電影学院“実験電影”学院奖获奖影片放映暨颁奖典礼」が開始
- 3) 組委會主席・王鴻海副学院長から坂和の紹介後
評審委員会主席の特頒此証の授与（写真⑩）
王鴻海副学院長の自筆の書の授与
- 4) 委員会主席坂和の講話（写真⑪）
- 5) “実験電影”学院奖大獎受賞者に、王鴻海と坂和から賞状と1万円の授与（写真⑫）
- 6) 授賞式参加者全員で集合写真（写真⑬）
- 7) 後海の烤肉季での夕食会で集合写真（写真⑭⑮）



评审委員会主席の名札

<授賞式でのスピーチは次のとおり>

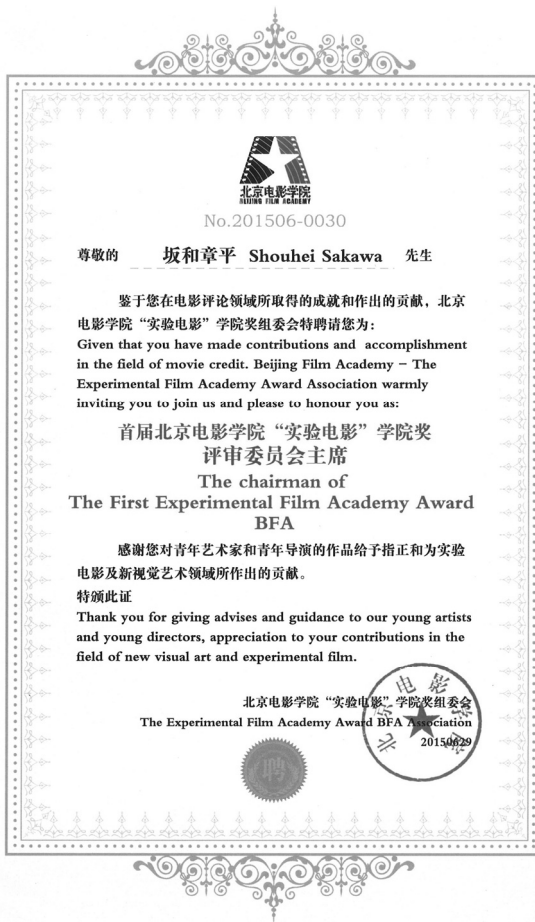
受賞式スピーチ 2015. 6. 29 (月) 北京電影学院にて

弁護士兼映画評論家 坂和章平

1) 皆さん、こんばんは。私は日本からやってきた坂和章平です。1949年1月生まれの私は今年66歳です。私は、2007年10月10日にここ北京電影学院で「私の中国映画論」と題する講演を行いました。その時の聴講生の1人が北京電影学院を卒業して早稲田大学に入学し、今年同大学の博士号を取得した劉茜懿(リュウ・チェンイ)さんです。その劉茜懿さんと北京電影学院の教授であるお父様の劉旭光(リュウ・シュエグアン)さんたち御一行が昨年7月に日本の大阪にある事務所と自宅を訪問してくれた際、私が北京電影学院“実験電影”学院賞のスポンサーになることが話し合われ、今年それが実現することになりました。本当に人間の縁とは不思議なものだと思うとともに、こんなかたちで私なりの日中友好活動が深められることを嬉しく思っています。

2) 私は子供の頃から大の映画好きでした。それが高じて、2001年に事務所を自社ビルに移転しホームページを開設すると同時に趣味のページをつくりました。そして以降、弁護士兼映画評論家として年間250〜300本の映画を観て、そのすべての評論を書き続けています。『SHOW-HEYシネマルーム』と題するその映画評論本は、ここ15年間で35冊になりました。とりわけ中国映画が大好きでその鑑賞数は250本を超えています。

3) そんな私にとって、本日こんな立派な会場で、こんな栄えある北京電影学院“実験電影”学院賞の受賞式に出席しご挨拶できることは本当に光栄です。劉茜懿さんとお父様の劉旭光教授、さらには副学院長の王鴻海(ワン・ホンハイ)教授や霍延霄(フォー・ティンシャオ)教授、劉曉清(リュウ・シャオチン)教授、敖日力格(アオリゴ)教授たちに心からお礼申し上げます。今回の作品はそれぞれ優秀な作品ばかりでした。本日の授賞式が充実した意義あるものになることを期待しています。本日は本当にありがとうございます。



北京電影学院“实验電影”学院獎・评审委员会から主席の任命状を



写真① 張会军学院長、敖日力格教授、劉旭光教授と



写真② 北京電影学院の校門の前で



写真③ 実験電影学院賞の授賞式を知らせる巨大な立て看板の前にて



写真④ 授賞式会場の入口にも大きな立て看板が



写真⑤
モンゴルの歓迎の儀式としてストール（？）を授与
される坂和



写真⑥ メイン・ゲストとしてモンゴル式の儀式で
角の中に入った白酒を一気に



写真⑦ モンゴルの羊の角の前で
霍延霄教授と並んで

写真⑧
劉曉清教授から「歌劇 白毛女3D舞台
艺术片场景設計」を授与





写真⑨ 夕食会参加者全員で記念の集合写真を



写真⑩ 王鴻海副学院長から評審委員会主席の特頒此証を授与される坂和



写真⑪ 評査委員会主席として講話をする坂和。翻訳は劉茜蕊さん



写真⑫ “实验电影”学院奖大奖の受賞者に1万元を授与



写真⑬ 組委會、評審委員會及び受賞者たちで集合写真



写真⑭
伝統ある後海の烤肉季で
北京料理と白酒を

写真⑮
著名なアーティスト王庆松さん、王博彦さん、
高润喜さんと



3. 頤和園観光 (2015年6月30日) (事務所だより第26号・2016新年号より)

北京電影学院“実験電影”学院賞の授賞式の翌日は2003年以降12年ぶりに頤和園を観光 (写真①②③④)



写真① 昆明湖を渡る船の前で



写真② 昆明湖を渡る船の中から九曲橋をバックに



写真③
貸衣装によって見事に清の皇帝に早がわり

写真④
メインの佛香閣に登り、頤和園全体の
すばらしい景色を満喫



第1編 坂和弁護士の素顔あれこれ

第1章 新聞掲載記事にみる素顔あれこれ

1) 弁護士業務も映画評論家活動も長い間きちんと真面目に続けているとそれなりに評価され、取材してもらえるものだ。『がんばったで！40年』では、38歳から63歳までの私の素顔を新聞掲載記事から紹介したが、本書では、64歳から68歳までの新聞掲載記事を紹介したい。このように取材され、掲載してもらえるのは幸せなことだと、そのたびに痛感！

2) 今回の“特筆モノ”は、「2. シネマトリップ」。これは「東京映画友の会」という映画サークルの実行委員をしている山田将治さんが東京から来阪した時に、私の事務所を訪問し取材したうえでの文章だが、その軽妙で的を得た紹介にただただ感謝。以降、私が東京に出張するたびに、会食しながら映画談議をするのが常となったうえ、その参加者がどんどん広がるきっかけとなった。自らの会社を経営しながら私と同じように年間約200本の映画を観賞するのは大変だが、そのうえ映画サークルの運営までこなしている活動量には恐れ入る。65歳から70歳まで5年間続いたこの縁を、これからも大切にしたい。

目次

- | | |
|---|----|
| 1. 愛媛新聞 ワイドえひめ (13. 12. 25) 「映画評論本 深く幅広く」 (64 歳) …… | 29 |
| 2. シネマトリップ (14. 11. 26)
『映画にまつわるあれこれ シネマ雑記帳』 …… | 30 |
| 「ナニワのオッチャン弁護士に会ってきた」 (65 歳) | |
| 3. 日本と中国 (17. 7. 1)
「二足のわらじ」で映画も語るナニワの熱血弁護士 …… | 32 |
| 「中国映画は、今の日本人が失った世界を思い起こさせてくれる」 (68 歳) | |
| 4. 都島区老連 2019 (平成 31) 年 1 月 第 62 号 (69 歳) …… | 33 |

ワイドえひめ

WIDE EHIME

通算30号 「自分なりの視点」自負

「ナニワのオッチャン弁護士」のニックネームで多方面に活躍する松山市出身の坂和章平弁護士(64)は大阪府北区に発行を続けてきた映画評論本「SHOW-HIGHLYシネマール」シリーズが、このほど通算30号に達した。

創刊のきっかけは2001年、事務所移転に伴ってホームページ(日)を開設、業務情報に加えて趣味の映画や旅行のコラムを載せ始めたこと。02年6月、HP掲載文をまとめたシリーズ第1号「二足のわらじをききたくて」を発行し、以来毎年2〜4冊のペースで出し続けた。大阪市中央公会堂(北区)を表紙にあしらった第30号は「13年上半年お薦め50作」を紹介している。

多い年で年間330本、最近でも160本



弁護士と映画評論家の二足のわらじで活躍を続ける坂和さん。著作も数多い

作品の評論基準は特に決めてないというが「歴史や法律に詳しい自分なりの視点で自分にしかできない評」論を書いたと自負する。また、他のベテラン評論家の分析力に敬意を払う一方「ただ宣伝するだけのライターはオモロない。映画評論家と認めない」と手厳しい。「映画は本来、エンターテインメントだが作品の評論基準は特に決めてないというが」

「歴史や法律に詳しい自分なりの視点で自分にしかできない評」論を書いたと自負する。また、他のベテラン評論家の分析力に敬意を払う一方「ただ宣伝するだけのライターはオモロない。映画評論家と認めない」と手厳しい。「映画は本来、エンターテインメントだが作品の評論基準は特に決めてないというが」

勉強でもある」と坂和さん。作品ごとに異なる登場人物のさまじい人生を疑似体験できる点を挙げ「弁護士としての接点が多い。人間との接点が多い。相手を理解するために自分の引き出しと体験が大切」と話す。本業の弁護士活動で「坂和さんの文章は平易で読みやすく、難しい内容もわかりやすい。」「SHOW-HIGHLYシネマール30」はA5判264頁(1200円)で3千部、「が」はつたで、40年「はA5判450頁、1800円)で5千部発行。「本屋に置いて売れんから、事務所の宣伝です」という理由で自費出版だ。問い合わせは坂和総合法律事務所「電話06(6364)5871。(高橋士朗)

2. シネマトリップ (14. 11. 26)

『映画にまつわるあれこれ シネマ雑記帳』

「ナニワのオッチャン弁護士に会ってきた」(65歳)

映画を愛する人と、映画に関わる人を繋ぐコミュニティ

シネマトリップ
cinematrip

2014 (平成26) 年11月26日記

シネマ雑記帳



映画にまつわるあれこれ シネマ雑記帳

Vol.2

column

ナニワのオッチャン弁護士に会ってきた

東京映画友の会実行委員 山田 将治

お会いしたのは、大阪弁護士会の弁護士、坂和章平先生。関西では、都市問題に造詣の深い弁護士として、そして映画評論家として活躍されている。

坂和先生と知り合ったのは、五年ほど前の「ナニワのオッチャン弁護士、映画を斬る!」という著作を、ご厚意で送ってくださってからである。私が、淀川長治主宰映画サークルの雑用を仰せつかっており、会の連絡先が私だったためだ。見ず知らずの者に大事な著作をくださるなんて、なんと奇特で太っ腹なオッチャンなんだろう、と感心していた。

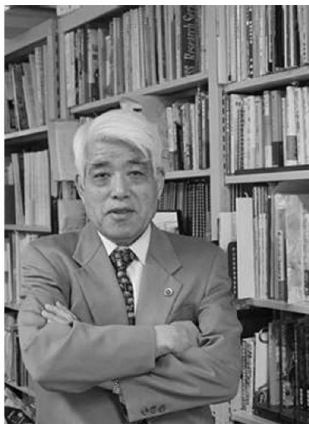
東京に比べ、まだまだ暑さが残る10月の初旬、大阪に降り立った。先生の貴重なお時間を頂戴するので、夕刻の仕事終わりの時間を申請したが、一日中オフィスに居るので遅い方が都合が良いとのことだった。宿泊するホテルを早めに出て、慣れない大阪市営私鉄を乗り継ぎ「南森町駅」に降り立つ。高速道路の高架が掛かる広い幹線道路から1ブロック入ったところに、目指す坂和先生の事務所があった。アメリカ映画に出て来る、敏腕ベテラン弁護士の事務所を想像していたが、綺麗なこじんまりとしたビルだった。1階にテナントが入っているものの、殆どは坂和総合法律事務所が使っている建物だ。意外なことといえば、多数の弁護士が詰めている活気溢れる事務所を想像しがちだが、事務所に所属している弁護士は坂和章平先生と御子息の宏展先生だけであった。

若い女性アシスタントの出迎えを受け、ミーティングルームに通して頂いた。部屋には勿論、壁一面の棚に弁護士のお仕事に関する書類ファイルや書籍が。そして他の壁面には、中国で先生が映画に関する講演をされた時のポスターがあったり、映画に関する著書(無論、裁判関係著書も混ざっている)が、サイドテーブルに雑然と置かれていた。

他の弁護士事務所では、見ることのない光景だ。

映画に登場する壮年の弁護士といえば、「検察側の証人(情婦)」のチャールズ・ノートン、「評決」のポール・ニューマン、はたまた「醜聞」の志村喬を思い浮かべる。実際お目に掛かった坂和章平先生は、職業柄独特の強い眼力があるものの、決して威圧するような雰囲気はなく、まるで晩年のオーソン・ウェルズを髣髴とさせる。相手を包み込むような表情で、まさに太っ腹なオッチャン然とされていた。

坂和章平先生は、愛媛県松山市のご出身。地元の進学



校である愛光学園から大阪大学法学部に進学され、卒業と同時に司法試験に合格。1974年に弁護士登録。大学在学中は活動家として知られていて、特権を嫌い、口癖のように「弁護士なんて偉くも何ともない」と仰る。実際にお話してみると、知識の豊富さは感じさせるものの、押し付けがましくはならない人の良さが前面に出ている。なんとも頼もしいオチャンだ。弁護士業においては、「大阪モノレール訴訟」「阿倍野再開発訴訟」「津山再開発訴訟」といった全国的に見ても有名な案件を受任されている。都市開発問題においては、単に何でも反対のエセ人情派ではなく、賛成・反対両面の立場を冷静に処理されてきた。これはひとえに、先生の性格と学生時代に培った弁論力、そして幼少期からの反骨心が、基礎を支えている。

坂和先生の映画との出会いは、地元松山に始まる。先生が学ばれた中学・高校は、地元のキリスト教系有名進学校である。「十戒」や「ベン・ハー」のような宗教色の強い作品は、推奨映画として観ても良いが、それ以外の映画は観ることが禁止されていた。小学生の頃からラジオで洋楽に親しみ、外国の文化に触れていた先生は、それでは飽き足らなかったようだ。勉強を押し付ける学校への反発から、自宅近くの「ロマン座」という洋画3本立ての映画館と日活映画専門の映画館（当時の木戸銭は学割で55円！）によく通った。先生曰く「立派な不良少年」と近所の大人に思われていたらしい。大阪大学に進学したのも、そうした閉鎖的な地方都市より、大都市の開放感を求めていることである。坂和先生は、団塊の世代の1949年生まれ。相当の競争を勝ち抜いて来られたと想像できる。しかし、現在の地位を勝ち誇ることなく、誰彼ともお付き合いされてきているのは、真の勝者の証であり、公平な映画評論にも見て取れる。

チェン・カイコー監督の「北京バイオリン」に出会って以来、特に中国映画に興味をお持ちで、後に神戸国際大学教授になった毛丹青氏と知り合い、現在は中国語検定に合格するほどの語学力を有している。また、2007年10月には北京電影学院で講演も行った。これだけに留まらず、毛教授のいことで、関西学院大学留学のために来日し、その後日本人と結婚した故ジャン・ソフィーさんの生涯を描いた「恵恵（フィーフィー）日中の海を越えた愛」の出版と映画化を、共同で作業し尽力されている。



今後の活動としては、中国からの留学生が撮る鑑真和尚をテーマとした映画や、日本とミャンマーを描いた自主映画などにも関わっていけるそうだ。坂和先生の映画に関する活動は、そのご興味と共に広がっていく。詳しくは先生のブログや著作をご覧ください。先生の好奇心が今後どのような活動に繋がっていくのか、映画ファンとしては楽しみだ。

ナニワのオチャン映画評論家兼弁護士の坂和章平さん。知り合い、お会いできてとても光栄である。帰り道にふと感じた。お会いする前は坂和先生を、「アラバマ物語」でグレゴリー・ベックが演じた弁護士フィンチみたいな人物と、勝手に想像していた。しかし実際は、同じグレゴリー・ベックでも「紳士協定」に出て来るジャーナリストのフィルに近い男だと思った。

いつになく、気分の良い夜になった。

(Writer: 山田将治)

坂和章平

1949年愛媛県生まれ。愛光中学・高校卒。大阪大学法学部卒業。学生時代は、活動家として名を馳せる。

1971年司法試験合格、司法修習26期。1974年大阪弁護士会弁護士登録。

主な訴訟、「大阪モノレール訴訟」「阿倍野再開発訴訟」「津山再開発訴訟」等。

主な著作、都市計画に関する専門書その他「シネマルーム」シリーズ全34巻「名作映画には「生きるヒント」がいっぱい」「名作映画裁判員制度」「がんばったで！40年」「津山再開発奮闘記」等。

URL: <http://www.sakawa-lawoffice.gr.jp>

ブログ: <http://sakawa.exblog.jp/>

ကံ



<プロファイル>

1949年、愛媛県松山市に生まれる。大阪大学法学部卒業後、74年に弁護士登録。79年に成和堂平井法律事務所開設（現堀江と森法律事務所）。都市計画問題が専門で大阪モノレール訴訟、阿倍野運動公園訴訟などを担当。同分野での弁護士活動が高く評価される。2001年に著書『東京の土壌』を刊行し、『ちづくりの法と政策』『石川賞』と日本不動産学会「実務協会賞」を受賞した。NPO法人大阪府中労協を創立。

映画の良さは「生きるた
めに殺立つポイント」がいっぱ
いある点にひき。そして「中
国映画」といわけ「ある世
代」の『ある監督』による
『ある映画』は、今の日本人
が失った世界を思い出させて
くれる。(北澤寛英)

「二足のわらじ」で映画も語るナニワの熱血弁護士

論評家 士護弁

坂和章平さん

大 阪府知事・牛越
十代徳田義孝
が「川田」を「
川」に訂正する。本誌掲載
「田中道雄を説く」のため
なびきのミドリ川線が川田
川「川田川」にならず
「川」人を含むことにな
り、また「川田」が訂正さ
れ、
愛媛県知事・牛越「80
本が川田」になり、川田
好まぬ「川田」の「川」が
川田の字がなくなり「川
田」に消える。あの「川田
」が川田だった。徳田大
阪の「川田」になるだけ
で、「川田」の愛媛と牛
越十代は「川田」に訂正し
て、川田の川田で川田の
川田。川田の川田は川田
川田と川田の川田は川田

[illegible]

ーズの第5巻・17巻・34巻
として出版)にまとめた。

映画通じ交流の輪広がる
北京電影学院、莫言氏も

こうした活動を通じて、中国旅行や中国人との交流も増えた。07年には北京電影学院に招かれ映画に關する集中講義を行く。それがきっかけで同年には自ら出資する学生の映画製作を支援するための「新鋭電影基金（坂和賞）」を創設。優秀な短編映画を募集し、受賞者には賞金を授与した。

質の真実。言氏の交友関係もある。共通の知人である毛丹青・神戸国際大学教授の呼びかけで1年と前日旅行をサポート。事務所では談したり、有里温泉に連れで行ったらしい。「来日中にちょうど中国で高速列車の脱線事故が起きた。公事訴訟の発端から『日本ではこうした事故が起ると

中国映画は、今の日本人が失った
世界を思い起こさせてくれる

訪友問

32

4. 都島区老連 2019 (平成31) 年1月 第62号 (69歳)

平成31年 (2019年) 1月発行

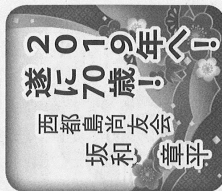
都島区老連

第62号 (8)

特集 平成最後のお正月を迎えて



一九四九年一月生まれの私の目下の楽しみは、二〇一九年五月に故郷・松山で開催される七十歳記念同窓会。平成天皇が突然表明した生前退位のための法整備を含む準備は着々と進み、二〇一九年四月には平成の三十年間が終了する。わずか七日間だけで終わった昭和六十四年＝一九八九年の一月五日に発生した少女誘拐事件を描いた映画『64-ロクヨン』のテーマは「犯人はまだ昭和にいる」だが、そこで平成は、古き良き昭和を象徴する『ALWAYS 三丁目の夕日』は東京、タワ一建設中の昭和三十三(一九五八)年の東京の下町が舞台だった。対して私の松山の小中高時代は、三種の神器(テレビ・炊爨機・冷蔵庫)の整備は遅かったものの『高校三年生』を歌じ、気持ちには常に前向きだった。そして



と十年は大丈夫だろう。私の少青年期の四十年間は昭和と共にあり、中年期の三十年間は平成と共にあったが、新元号と共に始まる今後の十年も楽しみながらそれなりの社会貢献をしたいと願っている。

私の転機は、天谷事件やベルリッの離間後と同じ一九八九年。三丁目の夕日は公害問題から都市問題・土地問題へ移っていたが、その最中の一九八九年、日本の土地バブルは弾け株価も大暴落。日本は「失われた十年」に突入した。一九七九～八九年(三十～四十歳)の私は仕事も遊びも太忙し。毎晩のようにつ北新地を飲み歩き、週末にはゴルフ場通いだったが、バブル崩壊後は立派の時代と共に五十～六十代の田舎期を過ごし、二〇一九年一月には遂に七十歳を迎えた。今後は老後期だが、二〇二〇年には東京五輪が、二〇二五年には三度目の大阪万博まで、都島区に引越した直後に大腸と胃がんの手術が続いたが、幸運にも転移はならぬ、あと十年は大丈夫だろう。

で、学生時代に明け暮れた後、同窓会への道を決めた学生時代。一九七〇年の大阪万博を民営に我が道を突き走り、一九七四年に弁護士登録、一九七九年には独立して自分の法律事務所を持った。

第2章

事務所だより巻頭写真にみる素顔あれこれ

1)『事務所だより』の巻頭写真は「巻頭言」と共に坂和総合法律事務所の“顔”だから、写真の選定には気を遣う。したがって、第1号のそれを弁護士バッヂをつけたスーツ・ネクタイ姿にしたのは当然だが、第2号以降は急に中国旅行が増えたため、その旅行での写真を使うようになった。北京、桂林、雲南省、山東省等で撮ったベスト1の写真は、素人撮影ながら上出来だ。

2)60歳になった時は事務所のスタッフがプレゼントしてくれた赤チョッキを着てご満悦の表紙にしたが、その後は方針転換し、事務所の「全員集合!」の写真にしたため、顔写真は60歳で打ち切りにした。したがって、『事務所だより』巻頭写真にみる私の素顔は54歳から60歳までの7年間だが、スーツ・ネクタイ姿だけでなく、自転車のみならず虎や馬の上にまたがった勇姿、鎧兜に身を固めた勇姿、プロカメラマンの前でマフラーをキメて微笑むモデル並の立ち姿、等々を楽しんでいただきたい。

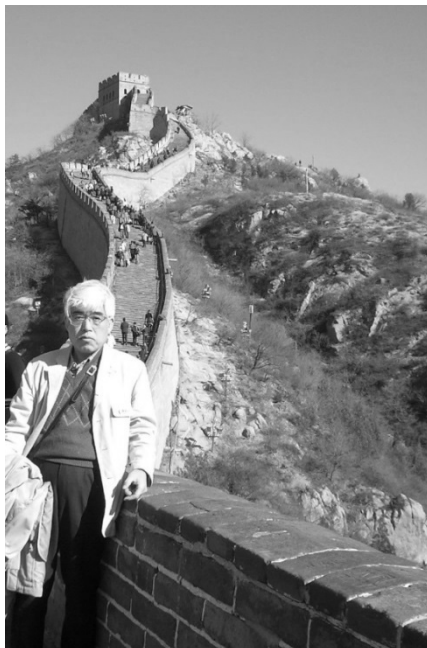
目次

1. 笑顔の坂和弁護士 (第1号・2003年盛夏号) (54歳)	35
2. 北京旅行・万里の長城にて (第2号・2004年新年号) (54歳)	35
3. 中国・桂林旅行 トラに乗って (第3号・2004年盛夏号) (55歳)	36
4. 中国・雲南省旅行 ナシ族の民族衣装で (第4号・2005年新年号) (55歳)	36
5. 試写室で (第5号・2005年盛夏号) (56歳)	37
6. 中国・山東省旅行 秦の始皇帝になって (第6号・2006年新年号) (56歳)	37
7. 金沢旅行・武将姿/映画検定4級合格! (第7号・2006年盛夏号) (57歳)	38
8. 愛車に乗って/映画検定3級合格! (第8号・2007年新年号) (58歳)	39
9. 北京電影学院で特別講義 (2007.10.10) (第10号・2008年新年号) (58歳)	40
10. 北海道 NORTHERN HORSE PARK で乗馬 (第12号・2009年新年号) (59歳)	41
11. 祝! 60歳 赤チョッキ/北京のまちで (第13号・2009年盛夏号) (60歳)	41

1. 笑顔の坂和弁護士（事務所だより第1号・2003年盛夏号）（54歳）



2. 北京旅行・万里の長城にて
（事務所だより第2号・2004年新年号）（54歳）



3. 中国・桂林旅行 トラに乗って
(事務所だより第3号・2004年盛夏号)(55歳)



4. 中国・雲南省旅行 ナシ族の民族衣装で
(事務所だより第4号・2005年新年号)(55歳)



5. 試写室で（事務所だより第5号・2005年盛夏号）（56歳）



6. 中国・山東省旅行 秦の始皇帝になって
（事務所だより第6号・2006年新年号）（56歳）



7. 金沢旅行・武将姿（事務所だより第7号・2006年盛夏号）（57歳）



映画検定4級合格！
（57歳）



8. 愛車に乗って（事務所だより第8号・2007年新年号）（58歳）



映画検定3級合格！
（58歳）



9. 北京電影学院にて特別講義 (2007. 10. 10)
(事務所だより第10号・2008年新年号) (58歳)

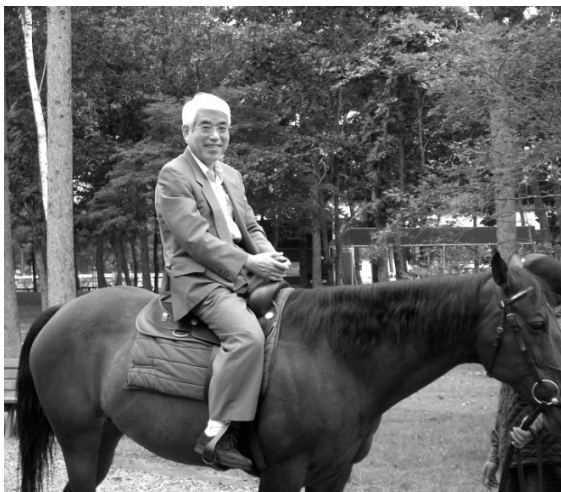


ポスターの前で



田壮壮監督と共に

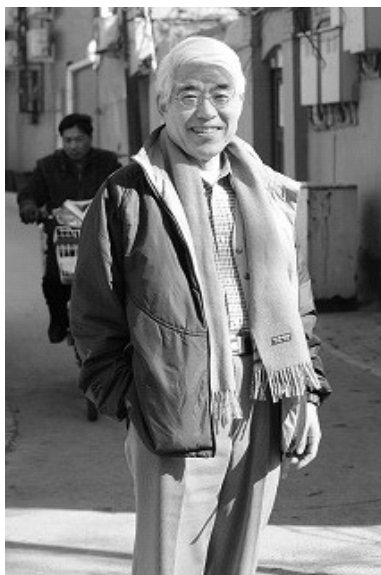
10. 北海道 NORTHERN HORSE PARK で乗馬
(事務所だより第12号・2009年新年号) (59歳)



11. 祝! 60歳 赤チョッキ／北京のまちで
(事務所だより第13号・2009年盛夏号) (60歳)



還暦の赤チョッキ



北京のまちで、プロカメラマンが撮影